

2016年11月期第2四半期
決算説明会資料

2016年7月22日(金)

(東証第1部:8095)



イワキ 株式会社

本日のご説明内容

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

決算概況(2016年11月期第2四半期)

第2四半期においては、期初予想を上方修正し、予想比で大幅増益で着地いたしました。

	<u>実績</u>	<u>差異</u> (対期初発表値)
売上高	268億円	△6.6億円
営業利益	3.3億円	+2.0億円
経常利益	3.4億円	+2.0億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1.0億円	+0.9億円

「弘塑電子設備（上海）有限公司」（TCM上海）を連結子会社化

▶ 営業利益で約0.5億円の寄与

TCM上海のご紹介

メルテックス株式会社の子会社であるTCM上海では、プリント基板製造プラントなどを中心に中国本土向けに製造・販売を行っております。



<工場建屋>



<プリント配線板製造プラント>

弘塑電子設備(上海)有限公司
(TCM上海)



<所在地>

■ 会社基本情報

会社名	弘塑電子設備（上海）有限公司
設立日	2004年1月29日
資本金	11,911,270RMB
従業員数	約50名

I .決算概況

II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

セグメント概要

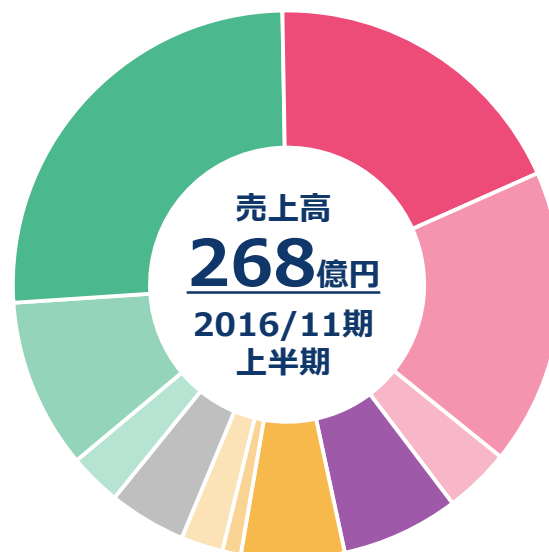
4事業をさらに分解した“Business Unit”を戦略単位としています。

医薬・FC事業 38%

- ◆ **原料薬品BU** 26%
医薬品原料の製造・販売
- ◆ **医薬品BU** 10%
医薬品の製造・販売
- ◆ **その他特約BU** 3%
体外診断薬・研究用試薬の卸売、
医療機器の販売など

化学品事業 10%

- ◆ **表面処理薬品BU** 6%
表面処理薬品・電子工業薬品・
化成品の製造・販売
- ◆ **表面処理設備BU** 3%
表面処理設備の製造・販売
- ◆ **スハ°シャリティマテリアルBU** 1%
めっき関連資材の販売



HBC事業 40%

- ◆ **ファルマネットBU** 19%
一般用医薬品・関連商品の卸売
- ◆ **HBC原料BU** 18%
化粧品原料・機能性食品原料の販売
- ◆ **オリジナル製品BU** 4%
化粧品の通信販売

食品事業 7%

- ◆ **食品BU** 7%
食品原料の製造・販売

※FC=Fine Chemical HBC=Health Beauty Care

セグメント別の概況

医薬・FC事業やHBC事業が好調に推移し、連結業績を牽引いたしました。

セグメント分類

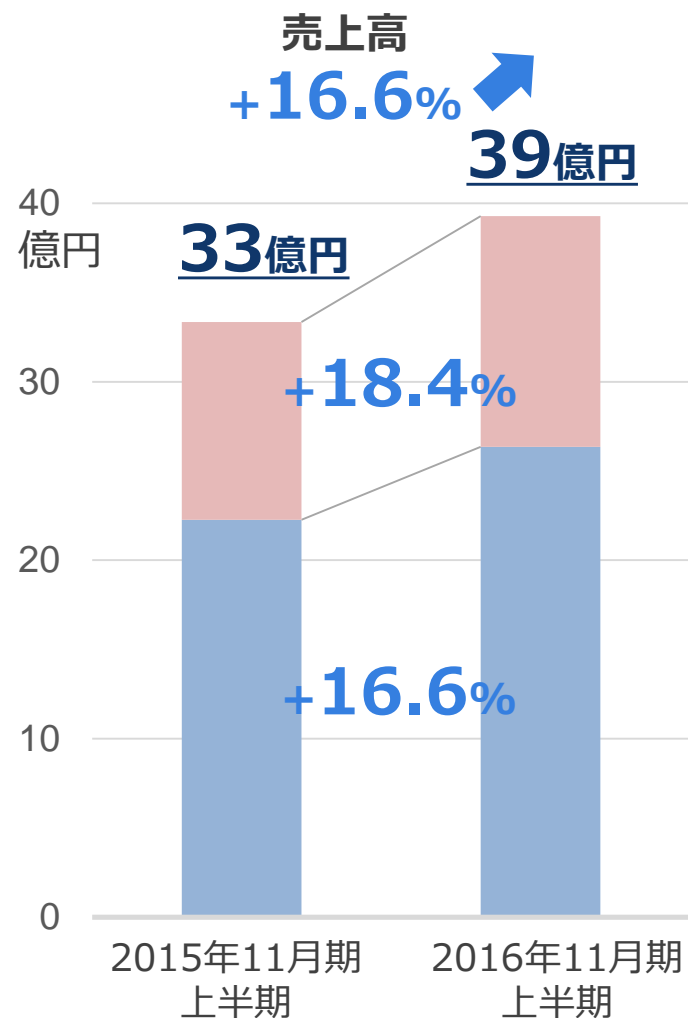
上半期の概況

トピックス

医薬品・FC	原料薬品BU	✓ 医薬品については、 後発医薬品使用促進策 により自社製品の伸長	☀️	➡️	①ジェネリック 医薬品
	医薬品BU	✓ 原料についても、 国内・輸出ともに 好調に推移			
	その他特約BU	✓ 医療機器（ICU向け） 新製品発売	☁️		
HBC	HBC原料BU	✓ インバウンド需要による 免税店向け商品の需要がひと段落 (機能性表示制度施行によるマーケット拡大に期待)	☀️☁️	➡️	②インバウンド需要 ③天然界面活性剤
	ファルマネットBU				
	オリジナル製品BU	✓ テレビCMなどの広告による 新規顧客の拡大や主力製品販売の伸長	☀️		
化学品	表面処理薬品BU	✓ 中国・韓国などのマーケットが低調	☔️☁️	➡️	④新規導入製品の 概況
	スペシャリティ マテリアルBU	✓ 新製品への切り替えへに注力			
	表面処理設備BU	✓ 中国ローカル企業との 新規取引拡大			
食品	食品BU	✓ 関連会社製品の 需要増による伸長	☀️☁️		(各セグメント共通) ⑤ROIC向上へ 向けた取り組み

① ジェネリック医薬品関連の概況 医薬 FC

薬価改定があるも影響は軽微で、金額・数量ベースともに大幅な伸長を達成。



医薬品BU 医薬 FC 自社製品(外皮用剤)

- 猛暑を控えて出荷増加傾向

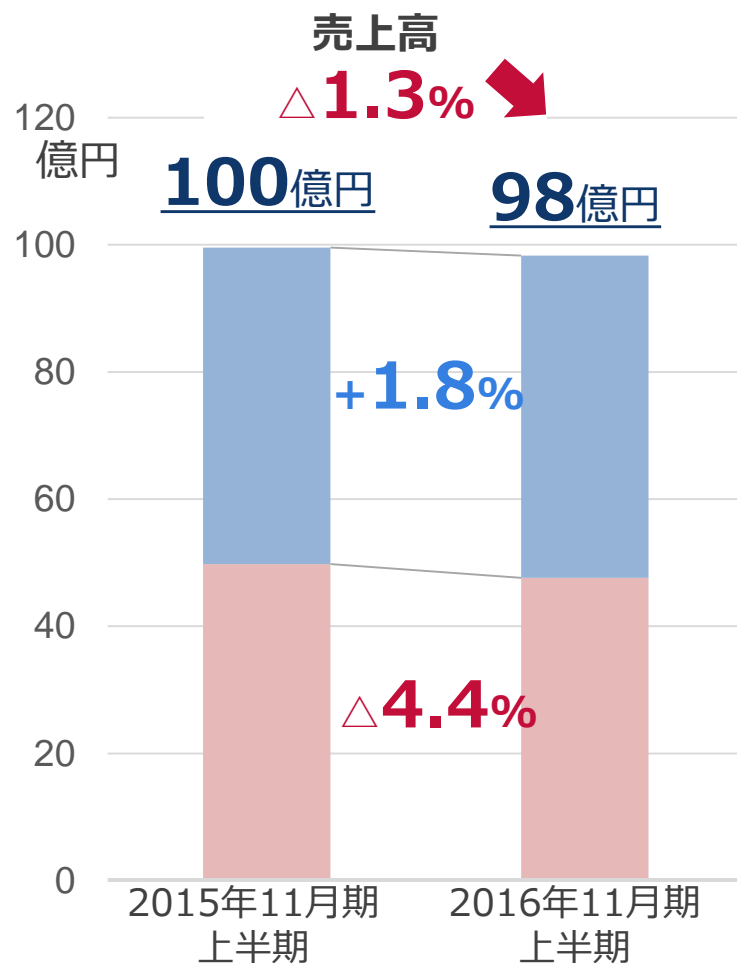
数量ベース **18.7%**

医薬品原料BU 医薬 FC ジェネリック医薬品向け各種原料 (自社製品+取扱い品)

- 提携先グレンマーク社(インド)からの輸入品の販売が好調

②インバウンド需要の概況 HBC

前期旺盛であったインバウンド需要はひと段落。特にメーカーにおける製品の在庫積み上がりにより、原料面での減少が目立つ。一方、利益面は向上している。



ファルマ社BU

免税店向け商品の卸売
(化粧品、健康食品など)

- 高利益率商品の納入増など利益率改善の取り組みが寄与する

HBC原料BU

化粧品・健康食品原料
(取扱い品)

- 越境EC向けに活況なメーカーもあるが、主要取引先で落ち込み、影響が大きい

③天然界面活性剤市場への参入 HBC

天然界面活性剤を開発・製造するAllied Carbon Solutions Pte. Ltd.(以下ACSグループ)と業務・資本契約のうえ、グローバルにおける優先販売権を取得いたしました。



- ✓ 天然由来の界面活性剤を開発・製造
- ✓ 原料の産地であるインドで製造

資本・
業務提携



- ✓ 当社グループが広範な顧客基盤を有する
「医薬品、化粧品、食品(健康食品を含む)」
にて優先販売権を取得

グローバル
優先販売権

化粧品

- ✓ 海外含む化粧品メーカー**約100社にアプローチ中**

食品
(健康食品含む)

- ✓ 今後は**食品(健康食品含む)の用途開発**を実施

中長計「i-111」
「策揃え」
実現へ向けて

③天然界面活性剤市場への参入

製品特性・用途

HBC

非可食天然物が原料であり、「自然派化粧品向け」への採用を目指す。

原料

✓インドで自生する**非可食天然物「マファ」の種**を絞った油脂

製法

✓インドにおいて、効率的で高度な発酵プロセスにより
大量生産の体制を確立
✓競合品と比べ**圧倒的な価格競争力**

特性

✓天然物由来であり**高い生分解性**を有する
✓高い界面活性力を持つ一方、**皮膚刺激性が低い**
✓人体への**経皮健康リスク**や**難分解性の低減が可能**

用途

✓**自然派化粧品**(スキンケア化粧品、シャンプー、ボディソープ)

今期中に大型製品への採用を目指す



＜原料：マファ＞



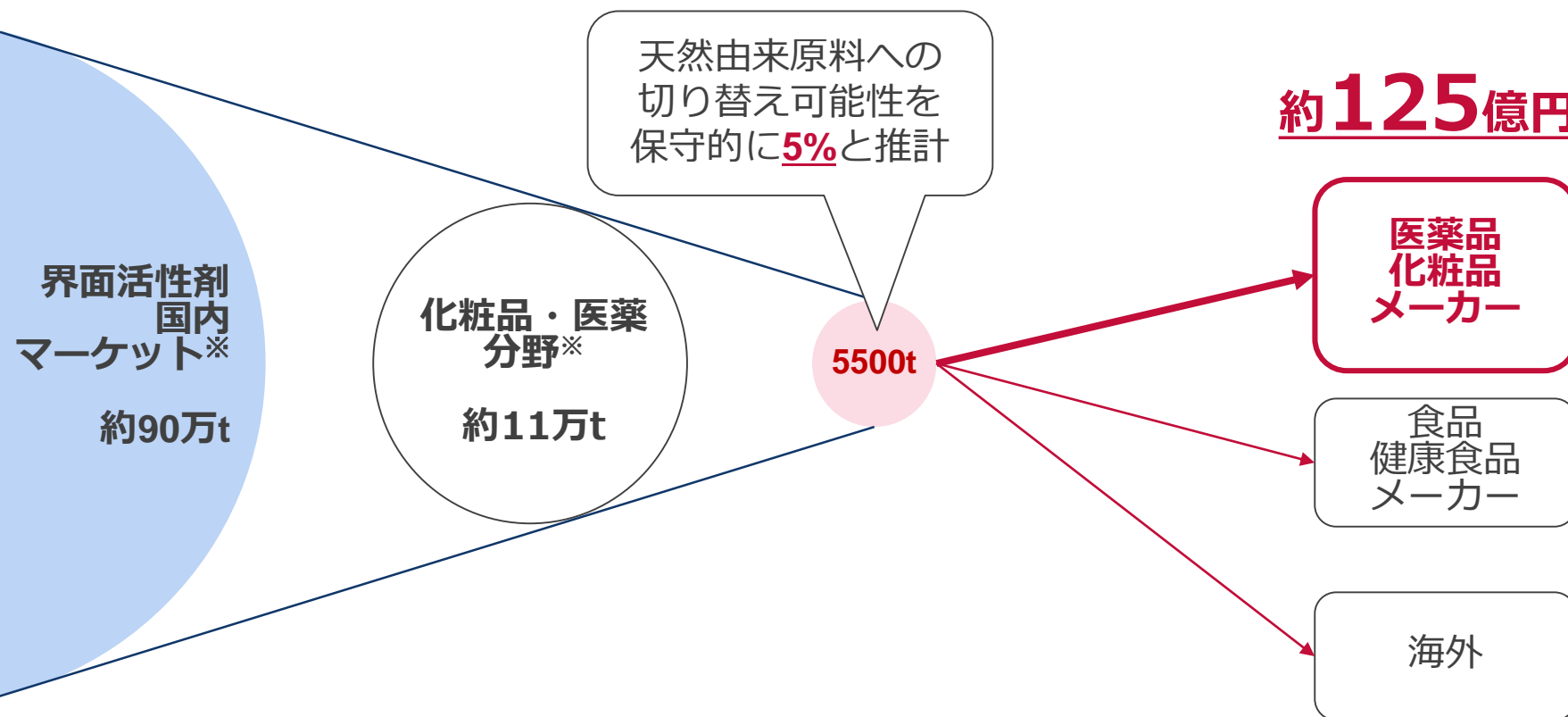
＜ACS-Sophor®＞

③天然界面活性剤市場への参入

HBC

マーケットポテンシャル

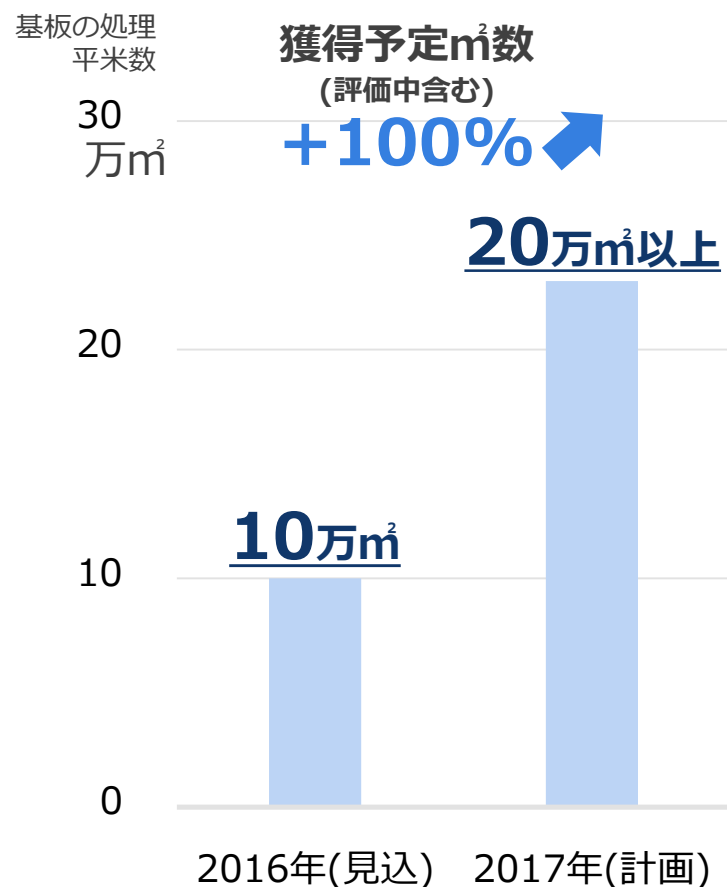
界面活性剤は様々な用途に用いられるが、今後天然由来原料への切り替えが想定できるマーケットは約125億円と推計される。



※ 経済産業省生産動態統計年報、日本界面活性剤工業会をもとに当社にて推計

④新規導入製品の概況 化学品

新規導入製品のルーセントカパーシリーズの評価が国内・海外主要顧客で進捗中。来期は処理平米ベースで約2倍以上の見込み。



<新製品ルーセントカパーシリーズ>

ルーセントカパーACP

高アスペクト比基板のスローイングパワーが優れる

ルーセントカパーSVF

低膜厚でのフィリング性能が優れる

ルーセントカパーAZ/EX

汎用性が高く様々な用途に使用可能

表面処理薬品BU

評価中の顧客数

顧客数: **17社増**

計32社

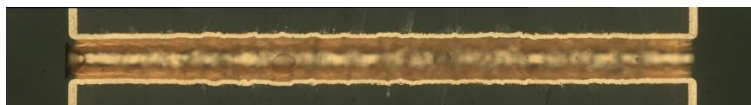
④新規導入製品の概況

ルーセントカパーACP 化学品

高アスペクト比基板のスローイングパワーが優れている硫酸銅めっき添加剤

- ✓広い電流密度範囲での良好な皮膜が得られスローイングパワーに優れている
- ✓特に高アスペクト比スルーホールに対して高いスローイングパワーが得られる

◆ 高アスペクト比スルーホールのスローイングパワー



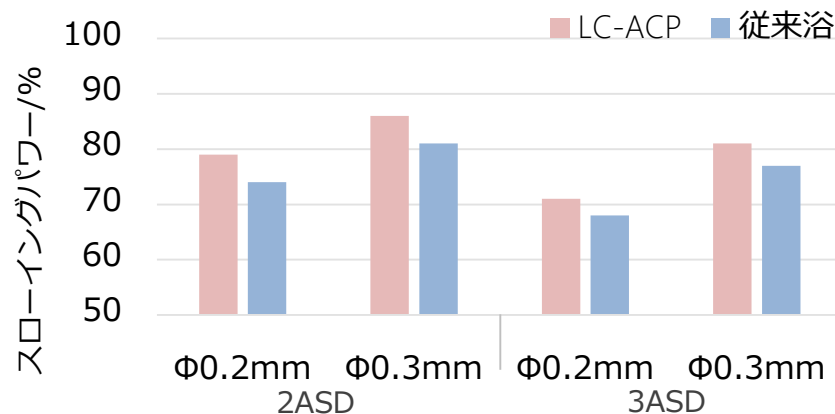
Test sample : 3.2 mmt Φ0.3 mm Current density : 1 ASD

T.P. 80.6%

Plating thickness : 30 μ m
(Cu/H₂SO₄/Cl = 30/300/50)

◆ 従来浴とのスローイングパワーの比較

各電流密度で従来品より約5%高スローイングパワーが得られる



Bath composition : CuSO₄·5H₂O/H₂SO₄/Cl = 75/190/50
Board thickness : 1.6 mm
Plating thickness : 25 μ m

⑤ ROIC向上へ向けた取り組み

ROIC向上へ向け、指標のモニタリングと改善策の検討・実施を行っています。

$$\text{ROIC}(\%) = \frac{\text{営業利益}}{\text{投下資本}} \times (1 - \text{実効税率})$$

$$\text{投下資本} = \text{売掛債権} + \text{たな卸資産} - \text{買掛債務} + \text{固定資産}$$

	投下資本	売掛債権 回転率	+ たな卸資産 回転率	- 買掛債務 回転率	+ 固定資産 回転率
前期	209億円	3.5	10.8	4.5	4.4
	▼	▼	▼	▼	▼
当期 (通期予想)	(当第2四半期末) 206億円	3.8	10.7	4.8	4.5
	3億円 ↘	0.3 ↗	0.1 ↘	0.3 ↘	0.1 ↗

▶ ROIC 2.7% (前期比+1.0% ↗)

⑤ ROIC向上へ向けた取り組み 投下資本削減実績

当上半期では主に固定資産の削減を行い、約1.4億円のキャッシュ化が実現しました。

有形固定資産

・ 遊休資産の売却 旧仙台支店 **1.0億円** ↓

投資その他の資産

・ 投資有価証券の売却 **10銘柄** **0.4億円** ↓

合計 **1.4億円** ↓

▶ **当下半期以降も継続して削減の取り組みを実施**

I .決算概況

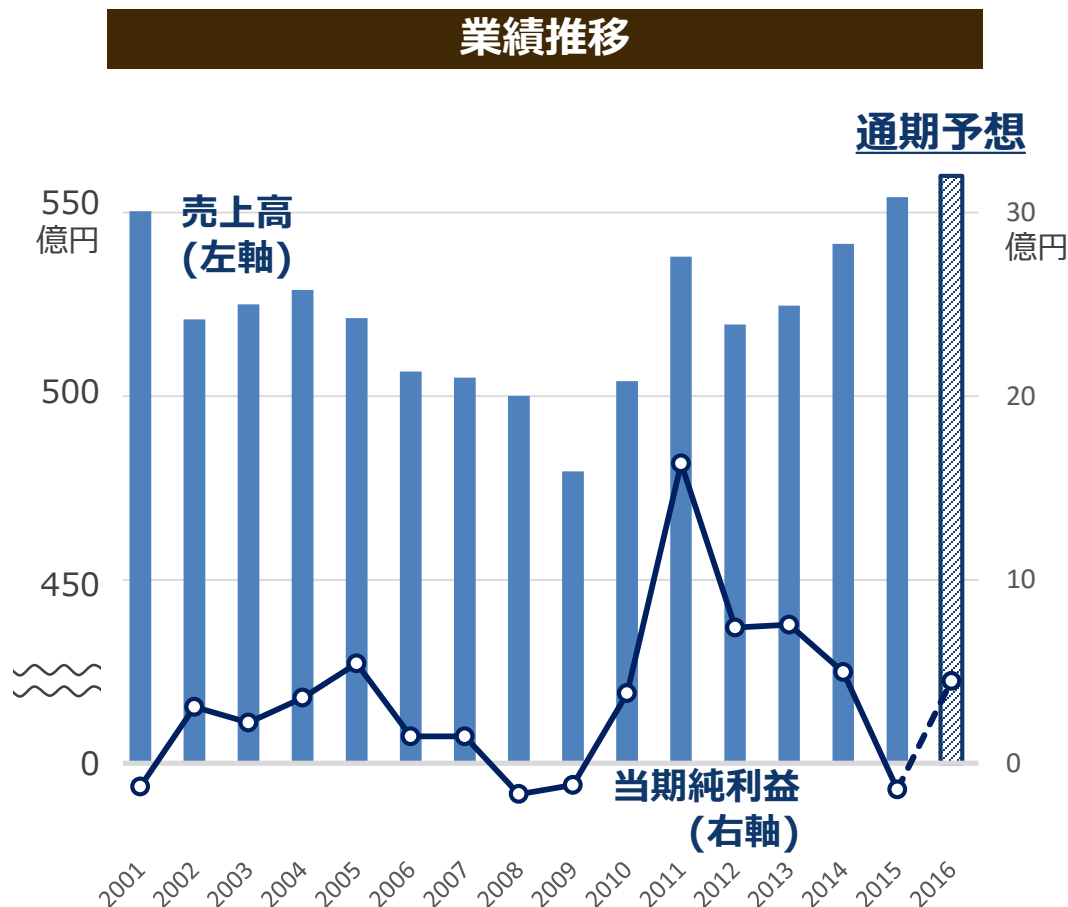
II .セグメント別の概況

III .今後の見通し

通期連結業績の見通し

2016年11月期は中期経営計画の第1年目として着実な成長、利益の確保を目指しています。

	見通し※	前期比
売上高	560億円	+1.0%
営業利益	8.5億円	+51.9%
経常利益	9.0億円	+29.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4.5億円	(+5.9億円)

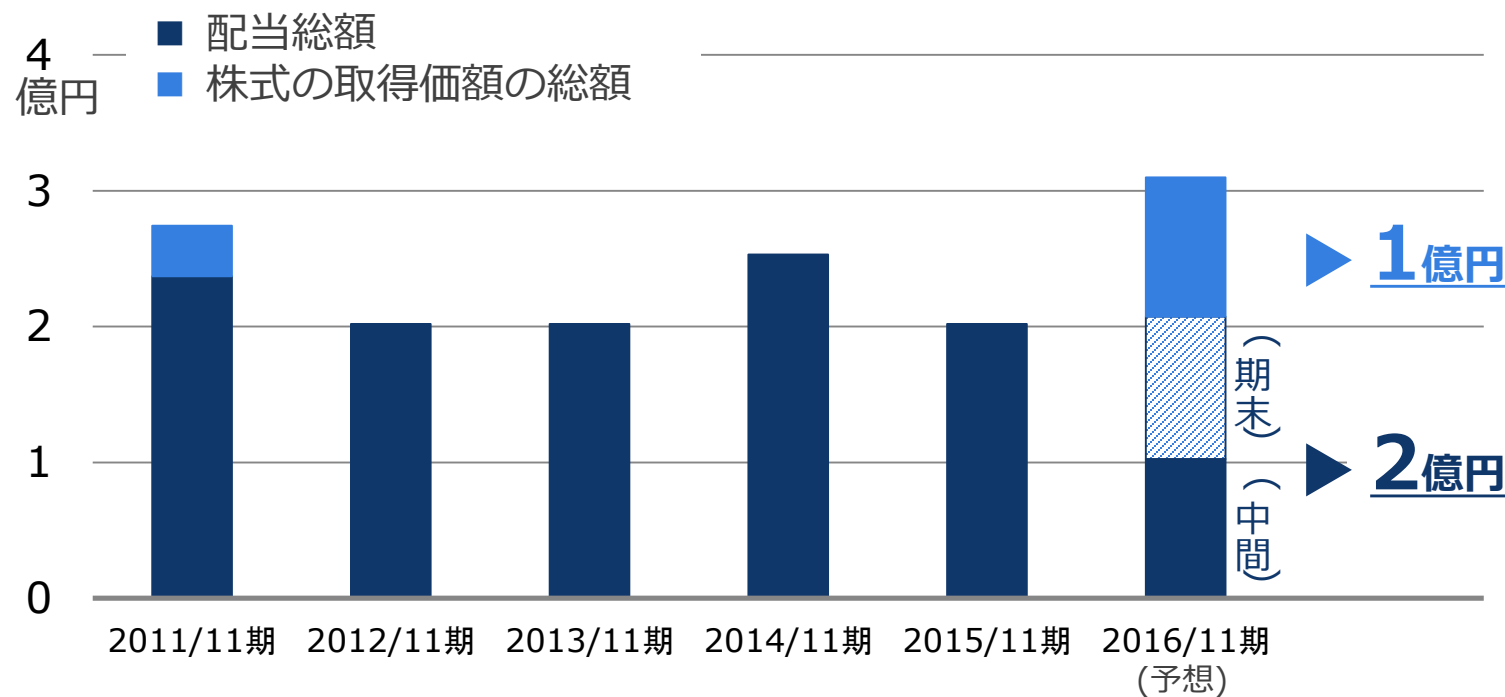


※2016年1月14日に開示しております。

株主還元

株主還元および資本効率の向上を図るため、配当および自己株式の取得を実施いたしました。

- ・ 自己株式の取得 ▶ **1.0億円**(50万株)
- ・ 年間配当 ▶ **2.0億円**(一株当たり6.0円)



問い合わせ窓口
伊ワキ株式会社 管理本部 経営企画部
Tel:03-3279-0564

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています